

平成26年度

「公共交通利便性向上・バリアフリー促進会議」

～人にやさしい公共交通を考える～

日 時：平成26年7月16日（水） 15：00～16：30

場 所：大館市役所比内総合支所 3階大会議室

【出席者紹介】～別紙参照～

1. 開会あいさつ（東北運輸局秋田運輸支局長 武内 伸之）

東北運輸局では、今回のようなバリアフリーの関係施策とともに、公共交通利用促進全般の取り組みを行っているところである。ここ大館市においても現在行っている事業に対して微力ながらも支援を行っているところである。その中で「地域協働推進事業」という取り組みがあり、「協力」の「協」、「働く」の「働」という文字通り、地域住民の皆様が交通関係者・行政等で力を合わせて地域全体でともに支え合いながら行っていくという取り組みである。

みなさんご存じの通り、大館市では「得とく定期券」利用促進のためのパンフレット作成、「バス&ウォーク」事業のチラシの作成費用等について補助制度を活用して頂いているほか、地域の方々の声を聞き、実情にあったバス運行に努めるための座談会の開催やワークショップ等、積極的に公共交通活性化に向け取り組んで頂いている。

また、並行して今年の10月から新たに、「地域公共交通確保維持事業」に手を挙げて頂いた。これは、大館市内で完結するバス路線、市内中心部と山間地域を結ぶ路線において、幹となる幹線から、枝葉が分かれるという意味で、「フィーダー」と呼んでいるが、この路線運行によって毎年生じる欠損赤字の2分の1を支援する補助制度にエントリーして頂いている。大館市で負担していた赤字補填分を、これら国の補助制度を活用して頂くことにより、今後も地域で抱える医療高齢化・少子化・人口減の問題解決の一助になればと思っている。

前回の会議では、大館市の鉄道・バス・タクシーについて利用しやすくなるように、皆様から活発なご意見を頂いた。本日の会議の目的は、体の不自由な方、高齢者をはじめとして、市民の皆様によりよい大館市の公共交通を目指していこうというものである。ただし、ご存じの通り、全てを実現できるというものではないが、行政でも、事業者でも対応を考えているところである。前回同様、学識経験者として秋田大学の日野先生、秋田県・大館市の行政部門、また交通事業者・協会にも出席して頂いているので、今回も決して苦情の場で終わることのないよう、建設的な意見の場として、利用者・事業者双方でよりよい議論をして頂きたい。私ども運輸局においても、本日の皆様の議論が今後の施策を展開する唯一のヒントになると確信しているので、どうか忌憚のないご意見をお願いしたい。

2. 議 題（座長：秋田大学 日野准教授 事務局：秋田運輸支局 五十嵐）

【事務局より対応調査票・討議資料の説明】～別紙参照～

(1) 公共交通機関等の利便性向上及びバリアフリーの促進の方策について

1. 路線バス（利便性向上のための方策に関する意見・要望・提案について）

【座長】

最初に、バス停に関する事で、長谷部アドバイザーから、空き店舗のバス停利用ということで前のご意見を頂いた。ほかの地域では、商工会議所で活用を進めているところもあるらしい。大館市の状況についてご存じの方がいればお話頂きたい。また、皆様からご意見を頂きたい。

（秋北バス・棚谷副部長）

空き店舗等を待合所に利用するためには、費用の問題がいちばんネックとなる。無償提供を受けたとしても、維持管理費用の点で、バス会社単独では難しい問題である。特に大館市内の場合、大町周辺が該当するが、なかなか適当な場所で費用をかけずに単独では難しいので、各方面からのご協力・提案を頂ければありがたい。

（畠山アドバイザー）

事業者単独では厳しいというのは同感であるが、冬場は運行時間が遅れたりしてバス利用者にも負担をかけることから、行政の協力を得てぜひとも検討して頂きたい。大館市では空き家対策をやっているのだから、その範疇の中で空き店舗についても管理しているのではないかと。商工会議所に聞いても、空き店舗をバスの待合所として利用する動きはないようである。

以前は、バス停を設置する際は、ぜひ自宅前にという場合が多かったが、今は、家の前が汚れる、ゴミを捨てられるということで、できれば自宅前からずらして欲しいということが数件あり、受け入れる側から見ても、思うほど簡単にはいかないという感触である。

（大館市・佐藤係長）

現在おこなっている空き家対策は、商店ではなく、一般の住宅向けである。商店に関していえば、商工課で空き店舗等利用事業というのがあり、3年間、月額4万円限度額で賃料補助があるが、大町周辺の賃料相場は10万円であり、新規で商売をすることが条件なので、バス待合所としてこの制度を利用するのは非常に厳しいと思う。

ただ、大館市で設置しているTKマンション前のバス待合所は、良い評価を頂いているので、別の事業を利用する等、新たな方策を考えていきたい。

（和田アドバイザー）

現実問題として、空き店舗をバス停に利用することは、事業者単独では費用対効果の面で非常に難しいとの共通理解がある。今後も事業者と行政が一体となって検討していくべきだと実感している。

（畠山アドバイザー）

街中でのバス停設置は難しいが、郊外の県道沿いにポール1本だけ設置されているようなバス停は、簡易な方法で待合所ができるのではないかと。いつ廃止になるかわからない路線のバス停に何十万という費用をかけるより、プレハブ等で費用を抑える方法もあると思う。

【座長】

フリー乗降区間の設定について、大館警察署、公安委員会との調整になると思うが、可能なものかどうか、状況について、秋北バスの方からお話したい。

(秋北バス・棚谷副部長)

現在、管内で運行している路線バスは、かなりの系統でフリー乗降を行っている。フリー乗降と謳ってはいるが、交差点やカーブのそば等、危険を伴う箇所では10～20m離れた場所で乗降せざるを得ないし、郊外では可能でも、市街地ではバス停を新設するのが難しいのと同様に、必ずしもどこでも乗降可能という訳にはいかないのが現状である。フリー乗降区間に関しては、郊外では20年以上前から要望を受けて設置しているが、これから新たに設置となると我々も難しいと感じている。

一方で、高齢者が増えて、バス停まで歩くのがつらいという方もいるので、バス停とバス停の間の距離が長い区間では、新たにバス停を設置する等、できる限り臨機応変に対応している。今後も、利用状況を見ながら、要望を聞きながら検討していきたい。

【座長】

前回、大館警察署・公安委員会との調整が必要と伺ったが、その辺の状況はいかがなものか。

(秋北バス・棚谷副部長)

必要に応じて相談はしている。郊外のバス停に関しては許可が下りるが、市街地では難しい。専用のバスプールがないと、通行障害や衝突のおそれがあるというので許可が下りないケースが多い。過去の一例として、今まで大館駅前から、大町、南町経由で池内まで行く路線バスを、新たに東台地区を経由し柄沢地区まで行き、交通空白地帯である柄沢地区にバス停を設置してお客様を乗せたいと思い要望を出したのだが、冬場の路面凍結と道路の傾斜がネックになり許可が下りず、設置を断念した経緯がある。私どもとしても、交通空白地域をなくし、お客様にとって利用価値があるように努力はしているが、実現できないケースもあるのでご理解頂きたい。

(畠山アドバイザー)

大館市では、交通渋滞は昔に比べてかなり減っていると感じている。タクシーや貸切バスが街中で停車できてなぜ路線バスはできないのか。以前より車体も小型化しているし可能だと思うのだが、乗客や歩行者双方の安全を考慮するとやはり難しいのだろう。ただ、もう少しなんとかならないものだろうか。街中の買い物客が多い地区はバス停間の距離を短くして、多く設置する等、乗降する場所の選択肢が増えたらいいと思う。

(和田アドバイザー)

首都圏の交通混雑地帯と地方の一都市では状況が違うのだから、フリー乗降も含めて交通政策に関して画一的な規制ではなく、その地方の状況にあった柔軟な政策が必要だと思う。地方にとっては交通手段としてのバス路線は必要不可欠なものだから、もう少し配慮願いたい。

(畠山アドバイザー)

新たにバス停を設置する際は、実際どこにあったらよいか乗客や市民に聞いてみたらよいのではないか。現在は、商店街が廃れている大町よりは、樹海ライン沿いや御成町3丁目方面に需要があるような気がする。利用者の意見を聞いて、具体的な案を提示した方が公安委員会にも働きかけやすいのではないか。

【座長】

次に、バス停設置箇所の市民への周知について取り組み等あったら教えて頂きたい。

(秋北バス・棚谷副部長)

新たにバス停を設置した場合、大館市の協力を得ながら広報等で周知をしている。私どもも、費用を投じて広告等作成することはできないが、会社のホームページへ掲載したり、各新聞社へ記事としての投げかけ等、公的な機関を利用しながら周知を図っているのが現状である。

【座長】

大館市では「得とく定期券」や「バス&ウォーク」等先進的な施策も展開されているが、そのような取り組みを含めて、どのように周知されているかご紹介頂きたい。

(大館市・羽沢主査)

バスに関するイベント等に関しては、定期的に市の広報で「公共交通特集」としてPRしている。バス停に関しても、部分的な運行経路の変更やバス停の廃止等を広報へ掲載して周知を図っている。

【座長】

市民への周知方法として、秋北バスと大館市から紹介して頂いたが、いいアイデアやご意見等あったらお話頂きたい。

(和田アドバイザー)

バス停の廃止のほか、既存のものに関しても周知しているのか。

(大館市・羽沢主査)

新設のものも含めて、施策に関して全般的に掲載している。

【座長】

大館市に住んでいないので広報を目にする機会が少ないのだが、公共交通に関する施策について私どもが目にする機会はあるか。

(大館市・羽沢主査)

予定としては、大館市の広報の8月号に公共交通特集として1ページ分設けている。これを年に1回の割合で掲載している。「得とく定期券」のPRや地域協働推進事業の内容について掲載する予定である。

【座長】

秋田市でも同様、せっかく様々な情報が広報に掲載されているのに、見ない人がいるのは残念である。大学生でも、広報は配布されているが、見ないで捨てるという人が多い。広報を見ない人にも、いかに関心を持って目を向けてもらうかが問題かと思う。

(畠山アドバイザー)

周知の方法としては住んでいる地域の広報が一番いい。新聞だと各紙によって記事の内容や広告が違ったりするが、広報は全戸配布だから確実である。バス以外にもゴミの収集日や納税、各種届出等、生活に密着した情報が掲載されている。学生さんにももっと目を向けてもらいたい。

2. 鉄道（利便性向上のための方策に関する意見・要望・提案について）

【座長】

最初に、前回意見があった、乗り継ぎ時間の短縮、きりたんぼ祭りでの臨時列車の運行、朝夕の列車本数の増発について、ダイヤ改正等も含めてお話頂きたい。

(JR東日本・有谷室長)

乗り継ぎ時間の短縮に関しては、今年3月のダイヤ改正で、上り列車・大館駅 10:42 着を 9:44 着に繰り上げて、大館駅 10:01 発秋田行きに 17 分で接続できるよう輸送改善を実施した。下り列車は大館駅の発車時刻を繰り上げて、秋田駅から弘前駅まで直通列車として乗車できるようにダイヤ改正を行った。

また、きりたんぼ祭りでは、平成24年度から「大館きりたんぼ号」を定期的に運行している。弘前方面からは、普通列車と特急つがる号の利用をお願いしたい。

朝夕の列車本数の増発だが、現在、大館駅エリアの利用人員の減少により、列車の増発については現段階では困難な状況である。

【座長】

きりたんぼ祭りでの臨時列車の運行の周知に関して、情報の発信等何かご意見あればお願いしたい。

(大坂谷アドバイザー)

きりたんぼ祭りを知らない方が意外と多い。弘前から来たお客さんも、私自身も知らなかったのも、もっと大館から情報発信していきたい。

(JR東日本・有谷室長)

実際、大館市で開催されるからといって、大館駅や大館地区だけにポスターを掲示しても宣伝効果は薄い。できれば秋田支社管内の各駅にもポスターを掲示できるように検討していきたい。

【座長】

列車の増発というのはなかなか難しい問題と認識しているが、車両台数の増減は利用混雑状況

によって変えているものなのか。

(JR東日本・有谷室長)

平日の通勤通学時間帯など混雑する場合は、最大の車両数で運行している。混雑しない時間帯は、車両編成を減らすなど調整している。

【座長】

列車のダイヤで次からは増発しようとする基準はあるのか。

(JR東日本・有谷室長)

乗客が何人以上とか、混雑率が何パーセントという基準はない。乗客の利用状況は、駅長や車掌が把握しており、データに基づいて曜日や通勤通学時間帯等を勘案して調整している。

また、イベント開催時には、臨時列車等で対応している。

【座長】

イベント列車の情報発信だが、JRと大館市観光協会連携して情報発信に取り組むことに対して、いいアイデア、ご意見はないか。

(島山アドバイザー)

JRのびゅうさんとは、ツアーの企画や地域の観光情報について、協議する体制は整っている。きりたんぼ祭りやアメッコ市の時は臨時列車を運行して頂いているが、それ以外の一般の観光は在来線で間に合っていると感じている。「弘前お城とさくら号」はいつも満員なので、このような好評な企画は、観光協会側からもホームページにアップする等宣伝していきたい。

(JR東日本・有谷室長)

地域のイベントは地域だけで宣伝しても広がらない。それぞれの地域でおこなっているイベントを秋田支社のホームページを活用するなどして、広域的にお知らせしていきたい。

3. タクシー（利便性向上のための方策に関する意見・要望・提案について）

【座長】

前回、タクシー会社により乗務員の接客態度に差があるという意見があったが、秋田県ハイヤー協会から、事業者全体での研修会の開催の話も出ている。できれば各社の接客での対応状況等お話を聞きたい。また今後の具体的予定等ご紹介聞きたい。

(ハイヤー協会・高橋副会長)

JRの協力を得て3年前から「駅から観タクン」という企画を始めた。これはJRを利用したお客様が駅構内で待機するタクシーを利用して大館市内観光をして頂くという企画であるが、これを始めるにあたり、市内のタクシー業者の乗務員を集めて観光と接客の研修会をおこなった。今年は国民文化祭に向けて、業者間で接客態度のレベル差がないように、9月までには接客講習

会を実施したいと考えている。

(和田アドバイザー)

観光客向けの接客講習も大切だが、地元の一般客への対応が基本だと思う。自宅へタクシーをお願いした際に、クラクションだけ鳴らして出てこない乗務員がいるが、降りて来て玄関まで呼びに来てくれないものなのか。タクシーとハイヤーの違いかは分からないが、平日頃の接客態度を心がけてこそ、観光客向けの接客態度にも活かされると思う。

(ハイヤー協会・高橋副会長)

地元の一般客への接客も、アドバイス頂いたことを含めてもう一度基本に戻って講習会で教育していきたいと思う。今後もお気づきの点があったら遠慮なく私どもに教えて頂ければ改善していきたいと思う。

(畠山アドバイザー)

私の近所の家でもよくタクシーを利用している方がいるが、最近はクラクションを鳴らさずに玄関まで呼びに行く方が多いようだ。乗務員によっても違うのだろうか。

(長谷部アドバイザー)

今日タクシーで来たのだが、乗務員の方が行き先が分からなくて無線で問い合わせていたが、相手の方も分からないようであった。途中で2回ほど降りて、道を聞いてたどり着いた。私は車を運転しないので、乗務員の方に道を聞かれても応えられないし、不安な思いをした。タクシーを予約する時に行き先も伝えているのだから、目的地までの所要時間や道順等を事前に把握し、乗務員が分からない場合は無線でフォローできる体制をとって頂ければ、お客さんも安心して乗車できると思う。

(ハイヤー協会・高橋副会長)

6年後の東京オリンピック招聘時に、滝川クリステルさんが「東京のタクシーは世界一安全安心だ」とアピールしてくださった。私ども秋田県のタクシー業界でも、一致団結しておもてなしの心で接客に努めているところである。お気づきの点があれば教えて頂き、よりよい接客ができるよう改善していきたい。

4. バリアフリー促進に関する意見・要望の障害者に対する乗務員のマナー

【座長】

バス乗務員のバリアフリーに対する指導・教育について、秋北バスの方で教育指導を実施しているということでご意見をいただいている。もしよろしければ嶋森アドバイザーから、配慮する点で、どういうところに気を付ければよいかなどお話を聞きたい。

(嶋森アドバイザー)

先日バスに乗ったら、運転手さんが親切な方で、「ゆっくり動きますよ」と声をかけてくださり、

障害者手帳もしっかり見てくださった。前回の会議でお話ししたことがしっかり伝わっていると感じた。私自身は車椅子を利用しないので、車椅子対応のバスが、どのような造りなのか、実際の利用の仕方が分からないので、見る機会がほしい。

(秋北バス・棚谷)

私どもでは運輸支局の協力のもと、数年前からバリアフリー教室を開催している。乗務員が視覚障害者や高齢者の疑似体験をし、当事者の方がどのような気持ちでバスに乗っているかを実際に体験することにより、体の不自由なお客様に、普段の業務で自然にサポートできるように取り組んでいるところである。全ての乗務員が完璧という訳ではないので、お気づきの点があれば遠慮なく教えて頂きたい。

車椅子対応のバスに関しては、台数が限られているので、事前に行き先と利用する時間帯を営業所まで連絡頂ければ、車椅子対応の車両を配車することができる。車椅子対応のバスは、ステップのところから車椅子を乗せるスロープが出てきて、車内に車椅子を乗せた時に固定する装置が付いている。

(島山アドバイザー)

乗務員だけでは大変なので、一般の乗客の方が乗降のサポートをして頂けると助かる。乗降だけでも数分の時間を要するので、他の乗客の方が暖かい心で待つという気持ちが大切だ。障害者だけでなく、健常者の方向けの車椅子対応のバスの説明会も必要ではないか。

(秋北バス・棚谷副部長)

大館市の産業祭では、車椅子対応のバスを展示している。利用者は年間数人程度であるが、要望があればいつでも対応していきたい。

(和田アドバイザー)

バリアフリー化というと、ハード面が先行しがちであるが、一番大切なのは心のバリアフリーの精神だと感じている。一般の方はもちろん、公共交通機関従事者の方々がそれぞれの立場で心のバリアフリーを推進して頂きたい。

【座長】

秋田県全体での接客研修の実施状況について、バス協会の方からお話したい。

(バス協会・明石係長)

バス協会では、会員事業者の運転者やバスガイドを対象とした研修会を原則として年1回開催していて70名程度が参加している。昨年はディステーションキャンペーン本番を迎えての特別研修会を行い、年間2回実施した。研修会では部外講師を招聘し、言葉遣い・接客要領等を中心に学んだ。また昨年度は、交通事故で娘を亡くされた犯罪被害者家族の講演を聴講し、バス運行に携わる者としてどうあるべきなのかを学んだ。今後の研修では、高齢者や身体障害者の特性を理解した適切な対応を心がけた接客技能の向上に努めていきたい。

【座長】

今日はJ Rの特急列車で大館市に来たが、たまたま車椅子の方が乗車する場面を見た。係員の方が車両にスロープのようなものを設置して、同乗者の方が車椅子を押して乗せていた。

(J R東日本・有谷室長)

乗車券購入時に、車椅子で乗車する旨を伝えて頂ければ、乗車した時点で、降車駅の方にも連絡を入れて、到着時に係員が対応できるような連絡体制をとっている。

(ハイヤー協会・高橋副会長)

私どもも車椅子対応の福祉タクシーをやっているのでご利用頂きたい。深夜・早朝に救急車で病院に来られて、帰りの足がない場合でも24時間対応で自宅までお送りしているので、ぜひご利用頂きたい。

5. 観光関係全般の行政主体による二次アクセス強化のための協議機関

【座長】

前回、和田アドバイザーから、行政主体による二次アクセス強化のための協議機関が必要であると意見を頂いている。観光の二次アクセスについては、どの地域においても重要な問題と捉えているが、なかなかスムーズに行っていないのが現状である。まずは、大館市から現在の協議機関の組織状況についてお話をしたい。

(大館市・羽沢主査)

大館市の観光課を事務局として、大館地域観光振興協議会という組織がある。設置の目的として、地域の観光に関わりが深い公共的団体等が情報や課題を共有し、大館地域の観光の誘客促進策を具体的・総合的に検討、推進する組織であり、商工会議所、J R、秋北バス、J A、ハイヤー協会等20団体で構成されている。

【座長】

ハイヤー協会から、官民一体となった組織作りが必要とのご意見を頂いているが、必要性について補足的な意見があればお願いしたい。

(ハイヤー協会・高橋副会長)

タクシー業界単独ではコストの面でも大変なので、行政のご協力を得て、観光案内についての勉強ができたと思う。また、乗務員の高齢化が進んでいるため、大館市観光協会に所属している観光案内の方にタクシーに同乗して頂いて、観光業務にあたれたらいいと思う。そのためには、大館市の方で助成金等の制度を検討して頂けないだろうか。

(和田アドバイザー)

私もかつては大館地域観光振興協議会に携わり、現在は離れているが、新聞等でも記事を見ないし、活動状況がはっきり見えてこない。誘客促進に向けての協議はされているのか、活動が後

退してはいないか、という思いを持っている。

(大館市・羽沢主査)

この協議会の設置要綱によると、観光コースの策定、観光資源の発掘と磨き上げ、観光課題解決のための各機関・団体への提案・要望・活動、構成団体から提案された案件等を協議するという業務を行う機関であるが、具体的な活動状況に関しては、市でも把握していない。

【座長】

もし可能であれば、大館市のほうから今回のご意見を協議会担当の方に伝えて頂きたい。

(秋北バス・棚谷副部長)

一昨年から大館市の協力を得て、「ぐるっとハチ公号」という定期観光バスを運行している。これは10月から11月の連休までの土日限定で、大館駅前から市内の観光地を巡るものである。昨年の実績では乗客の約7～8割が地元客である。このことから、二次アクセスをひけば即県外からの観光客が増えるというものではなく、地元の方々が市内の観光地をもっと知って誇れるよう、観光地自体をブラッシュアップすることが大事なのではないか。

県北地域でいくつか観光路線を持っているが、会社の乗合バス事業の中で生活路線は行政の補助対象となり、なんとか維持運営できているが、赤字要因を作っているのが観光路線である。十和田湖への観光路線に関しても、観光客の減少が著しいため、通常運行から季節運行に切り替えてコストダウンを図っている状況である。公共交通があるからといって必ずしも観光客が来るとい訳ではない。特に北東北は公共交通では観光しにくいところである。路線バスを利用するよりは、観光バスを仕立てて目的地へ向かうことが多い。このような状況からも、大館市も根本的に観光資源をもっと磨き上げていかないと、単純に公共交通だけの問題ではないと思っている。

(畠山アドバイザー)

二次アクセス強化が観光客の誘客促進のコンテンツだというのが、じゃらん等のデータによると観光地への移動手段は、最近ではマイカーが一番多い。特に北東北に関していえば、遠方からの客よりも隣県からの観光客が非常に多く、その60～80%がマイカーである。二次アクセスがよければ観光客がたくさん来るかといえば疑問である。費用対効果の面でも問題がある。

現在、大館駅前から市内の観光地に向かうお客様に対して、多少不便でもほとんどバスで行けますよ、と説明している。無料で自転車を貸し出す際にも、目的地と所要時間を案内している。私個人としては、二次アクセスがもっともいいのはタクシーを利用することだと思っている。「駅から観タクン」のシステムをもっと広くPRしていきたい。タクシーは割高というイメージがあるが、大館駅前から観光地を周遊して6400円という料金は、3人、4人と同乗する人数が多ければ1人当たりの料金はかなりお得である。

(2) その他

【座長】 その他の意見・要望等

これまで、ポイントを絞ってお話して頂いたが、他に大館市の公共交通利便性向上について何かあったらお話頂きたい。

(嶋森アドバイザー)

城南小学校の前のバス停に椅子がない。バスを待っている間、疲れてくると歩道に足を出して座っている人がいて、日頃から危ないと感じている。何かよい方法はないかと思って見ている。

(秋北バス・棚谷副部長)

バス停のベンチをバス会社で設置すると、道路占用料というものを支払わなければならない。どこからか寄付というかたちであれば占用料はかからない。以前、こどもサミットさんからペットボトルを利用したベンチを頂いたことがあるので、今後また機会があればお願いするなり、検討していきたい。

(大坂谷アドバイザー)

大館駅の自動券売機だが、高齢者の方が操作方法が分からずに時間がかかっている場面を見かけることがある。駅員の方がアドバイスしてくれたらスムーズに行くのに、誰も居ない時がある。改札時には駅員さんが2人くらい来るが、自動改札にしてその分の人員を乗客を見守るように配置できないものだろうか。

(JR東日本・有谷室長)

券売機の自動化については今後さらに進めていくことになると思うが、ハード対策はもとより、駅員が気づいて可能な限りお声がけできるように努力していきたい。

(和田アドバイザー)

夜間高速バスの件だが、秋北ホテルからいとくショッピングセンター前に移動になって不便になったと議会でも取り上げられているが、その後の秋北バスと事業者側での協議の進捗状況についてご説明頂きたい。

(秋北バス・棚谷副部長)

現在、市の都市計画課を含めて調整中である。不便になったという一方では、便利になったという声も聞く。高速バス利用者用の駐車スペースが30台ほどあるが、常にほぼ満車の状態である。乗用車で来て、車を置いて高速バスに乗る方にとっては便利になっている。元に戻したとしても、今度は駐車場利用者から不便になったという声が出てくるのではないか。双方の意見と、高速バスの定時性・即効性を確保できるか、道路状況等ハード面の整備も併せて調整中である。早急には結論が出せないが、少しずつ話し合いは進んでいるので、もう少しお待ち頂きたい。

【座長】

本日の皆様のご意見を伺って全般的にいえるのは、ひとつは周知すること、また関係各位との協力関係が非常に重要であるということ。そして、利用者の意識というのが非常に重要である。ゴミを捨てる人がいることによってバス停が迷惑施設になり得るということ。このような原因で

バス停が設置できないとなると、利用者側にかえって不便なことになってしまう。フリー乗降区間も停車可能な区間での降車をわきまえ、バリアフリーに関しても、高齢者・障害者に対する周囲の受け入れ体制等、様々な面で心の余裕が、将来的に長い目で見て、あらゆる利便性の向上につながるのではと考えた。

最後に、前回、事務局へ費用負担等積極的な情報提供をお願いしていたが、その件に関してお話をしたい。

【事務局】

低床バス導入等補助制度について

前回の会議で、畠山アドバイザーから低床バス導入の予算措置や、和田アドバイザーから大館駅連絡通路のエレベーターの設置要請のお話を頂いた。国土交通省では、地域公共交通確保維持改善事業において、バリアフリー化設備等整備事業というのがあり、補助制度として取り組んでいる。この事業は、高齢者・障害者をはじめ誰にとっても暮らしやすいまちづくり、社会づくりを進めるため、公共交通のバリアフリー化を一体的に支援するものである。鉄道駅・旅客ターミナル、ノンステップバス・リフト付きバスの導入等がある。基本的に事業者へ費用の2分の1、3分の1の補助となるため、事業者のみの拠出ではなかなか難しいのが現実である。同様の補助を県・市町村からもご協力できないものか今後の展望をみていきたい。

バスの乗り方について

長内アドバイザーから、バスの乗り方や料金表の表示について、わかりやすいものがあれば、もっとバスに乗るのではないかとのご意見を頂いた。昨年秋北バスさんと協同で行った小学校のバリアフリー教室の際に、「みんなのバス教室」という冊子を子ども達に配布し、バスに親しんでもらおうという取り組みを行っているところである。今年度はバス協会さんの方で「バスまつり」で配布するために多めに印刷してもらえるようになった。これを大館市の産業祭等、機会あるごとに配布して周知に取り組んでいくつもりである。

観光地までの二次交通、観光関係全般について

観光地までの二次交通については、私どもも常々考えているところである。昨年「海フェスタおが」、「秋田ディステーションキャンペーン」開催時には駅からのアクセス、会場までのシャトルバス等、市町村と相談しながら取り組んだ。今年に入り、10月に開催される国民文化祭に向け、2月に観光事業者、交通事業者を対象に秋田市において観光セミナーを行い、旅行商品をどのように造成するか等プロから意見を頂戴したところである。また8月にも2回目のセミナーを予定しており、今回はバス事業者、タクシー事業者を対象に国民文化祭に向け、いかに観光と二次交通が連携して事業を展開していくか等の議論を進めていきたいと思っている。10月の国民文化祭開催時には、観光と二次交通が連携するいい事例ができるよう積極的に支援していきたいと思う。ご意見の方もいろいろ多種多様になり、それを模索するのも大変であるが、私ども運輸支局も仙台の運輸局と連携しながら、今後も皆様からのご相談に大いにのっていききたいと思うので、ご協力のほどよろしくお話をしたい。

3. 閉 会